

区・地域における参加の促進

提言3 地域の意見を反映 できる参加の組み立て

計画等において、地域における意見を反映する参加プロセスの設計

- 川崎市の現状
- 全市的な計画等であっても、それに伴う事業は市民に身近な区あるいは地域で多く実施されています。
 - 川崎市では、各区、地域において多様な地域特性があるため、意見を聴取する対象のバランス等にも配慮するとともに、地域の実情をよく把握している区・地域における意見を十分に組み込む必要があります。

- 委員会の提言
- 「参加のスタンダード」を踏まえつつ、地域の意見が反映されるよう、計画等への参加のプロセスを組み立てる必要があります。
 - 地域の意見を積み重ねて全市的な計画等へ反映していく必要があります。
 - 意見を聴取する際には、計画等へのステークホルダー（計画等によって関わりをもつ人や影響を受ける人たち）の分析を行いながら適切な参加を組み立てていく必要があります。

提言4 より 開かれた区民会議

公募委員に対する情報提供等の支援、区民との対話・交流などを行い参加を促進

- 川崎市の現状
- 区民会議は、区における地域課題を把握し、その解決を図るための方針及び方策について調査審議を行うことを目的として設置されています。
 - 概ね市民活動団体等に属していない公募委員は、団体推薦の委員に比べて情報量等に格差があることから、審議において公募委員としての役割が十分果たせるよう事務局や区民会議委員同士のサポートが必要となります。

- 委員会の提言
- 多様な区民が公募委員として活躍できるよう、効果的な研修会・勉強会などを開催して委員間の共通認識が深まるよう努めるとともに、情報格差を埋めるため、公募委員の要請に基づき個別に説明するなど適切な情報提供を行う必要があります。
 - 区民会議においても市民参加を促進するため、「参加のスタンダード」を踏まえて審議や課題解決の過程になるべく多くの区民が参加できるよう、区民との対話や交流を行うなど地域に開かれた区民会議とする必要があります。



参加の環境の整備

提言5 多様な参加機会 の拡充

多様な参加機会を確保し、より一層の参加の裾野を拡充

- 川崎市の現状
- 参加の場における市民は、それぞれ自分が活動している得意分野を持っており、関心のある分野についての意見や発言等には偏りが出てしまうこともあります。
 - しかし、参加することにより多様な意見を聴く機会を得て、全体を俯瞰するような視点を得るなど参加を通じて”市民の参加力”の向上が期待できます。
 - 子ども会議や外国人市民代表者会議などにより参加機会の拡充が図られています。

- 委員会の提言
- 「参加のスタンダード」を踏まえてなるべく多くの市民が参加できるよう、パブリックコメント手続などの参加の手法について十分に周知するとともに、開催場所、開催時間、開催回数などを工夫する必要があります。
 - 参加しにくい状況にある市民、例えば子育て中の親の参加の機会を確保するなど、一層の参加の裾野を広げる必要があります。

提言6 参加を コーディネートする行政職員 の育成

参加の場を企画・運営できるような行政職員の育成と経験知の継承

- 川崎市の現状
- 行政職員は、なるべく多くの市民ニーズを汲み取りつつ実現性の高い計画等を策定することが求められています。
 - 参加の場での市民意見を調整し、会議運営を円滑に進めるファシリテート能力と参加の手続きや場を企画・設計するとともに、参加の結果を施策等へ反映するコーディネート能力を備えた職員を育成する必要があります。

- 委員会の提言
- 職員が参加の場における経験を積む機会を得られるよう、区役所をはじめとした参加の現場への配属を引き続き積極的に実施することが重要です。
 - 参加の場の企画・運営を担えるようなファシリテート能力やコーディネート能力などを高める研修プログラムの充実を図る必要があります。
 - 参加の場でのノウハウを経験豊富な職員から他の職員に引き継いでいく、あるいは組織間で共有していくことで、参加の結果を施策に反映しやすくなることから、参加プロセスの組み立て、参加に係る会議運営・委員構成、市民意見の反映方法などの経験知をなるべく形で表す必要があります。